

都市再生整備計画 事後評価シート
上田城下町地区

平成27年3月

長野県上田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	上田市		地区名	上田城下町地区			面積	177ha		
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	2,615.1	国費率	0.487				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	・道路事業：市道天神町新屋線他 ・地域生活基盤施設(地方都市リノベーション事業)：市民緑地広場、街なか駐車場 ・高質空間形成施設：上田藩主屋敷跡遊歩道 ・高質空間形成施設(地方都市リノベーション事業)：公共サイン、街なか駐車場トイレ ・高次都市施設(地方都市リノベーション事業)：交流文化施設 ・地方都市リノベーション推進施設・美術館整備事業(平成24年度の制度拡充により、地方都市リノベーション事業が創設され、本事業は提案事業から基幹事業に移行した)									
			提案事業										
	当初計画から削除した事業		基幹事業	地域生活基盤施設：大手門地区緑地広場	・民間事業の計画変更に伴い削除。			指標の「中心市街地の歩行者通行量」に関係するが、数値目標は据え置いた。					
			提案事業	地域創造支援事業：交流サロン整備事業、美術館整備事業(基幹事業へ移行) 事業活用調査：まちなかレンタサイクル事業	・地方都市リノベーション事業の制度拡充により、社会資本整備総合交付金の効果促進事業へ移行。			社会資本整備総合交付金の効果促進事業として併せて実施するため、影響なし。					
	新たに追加した事業		基幹事業	道路事業：市道材木町線	・新規開設した総合保健センターや大型スーパー、既存公共施設と中心商店街を結ぶ道路であり、快適で安全な通行空間確保を図るため追加。			指標の「中心市街地の歩行者通行量」に関係するが、数値目標は据え置いた。					
提案事業			なし	-			-						
交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
	変更	-											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	中心市街地の歩行者通行量	人/日	22,204	H20	24,257	H26	モニタリング	評価値	×	あり なし ●	平成27年10月頃	
	指標2	交流・文化施設の利用者数	千人	127	H20	152	H26	-	152	○	あり なし	平成27年10月頃	
	指標3	上田城跡公園周辺施設利用者数	人	174,754	H20	180,000	H26	-	200,102	○	あり なし	平成27年5月頃	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	中心市街地の居住人口	人	6,209	H20	/		-	6,124	/	/	減少幅は年平均10人弱で推移しており、中心市街地への居住人口の誘導がある程度効果を表している。	平成27年10月頃
	その他の数値指標2	中心市街地の世帯数	戸	2,838	H20	/		-	2,878	/	/	僅かながら増加傾向にあるが、人口は減少しているため、より核家族化が進んでいると思われる。	平成27年10月頃
4)定性的な効果発現状況	小中学校の通学路であり、上田駅から徒歩や自転車で上田城跡公園へ向かう主要な路線である、市道天神町新屋線の幅員構成の見直しを行い、歩道の拡幅及び路肩のカラー舗装化、交差点改良を実施した結果、歩行者や自転車通行に対し、安全性が確保できた。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-						
	住民参加プロセス	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-						
持続的なまちづくり体制の構築	・まちづくり協議会等による沿道の定期清掃や美化活動 ・屋外広告物の設置に対する商店街の景観協定の適用			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、商店街や街なみの魅力向上活動の一環として継続していく。					

様式2-2 地区の概要

上田城下町地区(長野県上田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
交流・文化・憩いを基本に新生上田市のシンボルとなる拠点整備を行うとともに、歴史と自然を活かした「生活快適都市上田」を目指し、中心市街地の再生を図る。 ① 市民協働による、中心性、求心性の高い市街地の再生 ② 豊かな心を育む憩いの場と芸術文化の拠点づくり ③ 新生上田市のブランド力の向上	中心市街地の歩行者通行量	単位:人/日 22,404	H20 24,257	H26 18,921
	交流・文化施設の利用者数	単位:千人 127	H20 152	H26 152
	上田城跡公園周辺施設利用者数	単位:人 174,754	H20 180,000	H26 200,102
		単位:		
		単位:		

【天神町新屋線】

【交流・文化施設、美術館、市民緑地広場】

【上田藩主屋敷跡遊歩道】

まちの課題の変化

- ・都心環状道路網に位置付けている市道の整備により、中心市街地の交通の分散化を図るとともに、道路空間の再整備により歩行者の安全を確保した。
- ・道路環境の整備、街なか歩行者空間の高質化など、魅力あるまちづくりのベースが整備された。
- ・中心市街地の歩行者数は減少が続いていたが、計画最終年度に増加に転じており、回復傾向が見られる。
- ・上田城千本桜まつりやロマンウォークをはじめとする各種イベントの充実により、上田を訪れる人が増えてきていること、運賃低減バスの実証運行により街なかのバス停利用者が増加したことなどが要因として考えられる。
- ・多様なニーズに応えることができるホールや美術館が一体的に整備されたことにより、利便性や施設の魅力が増し、今後の事業展開に高い期待と発展性が見込まれる。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・高齢者、車椅子、自転車が安全で安心に通れる道路環境の整備や交通ネットワークの構築など、少子高齢化社会に対応した交通体系づくりが必要となっている。
- ・中心市街地の歩行者通行量の減少が続いており、上田城跡を中心に増加する観光客の中心市街地への誘導、回遊性の向上が課題である。
- ・サントミュージアムは、上田市の新たなシンボルとして、芸術文化の拠点となり、多様なニーズに応えられるよう、緑地広場も含めた適切な維持管理、運営管理を行っていく必要がある。
- ・賑わいのある中心市街地の再生のため、民間都市機能の立地支援や誘導、街なか居住施設の設置に対する民間事業への支援を強化していく。